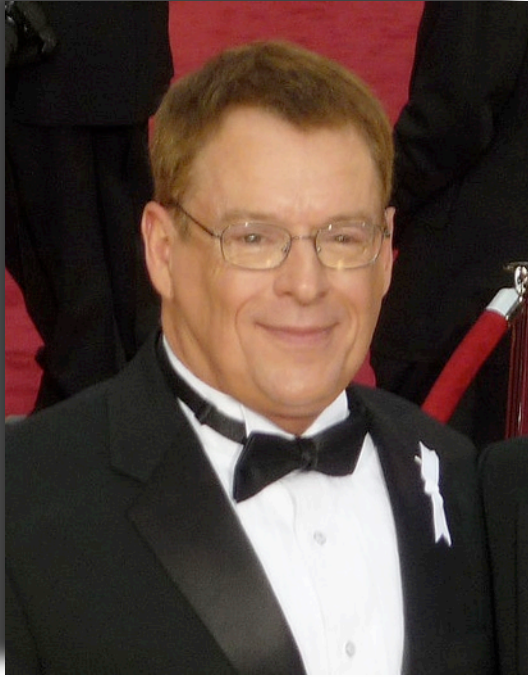


ゲイ人権運動の先駆者 クリーブ・ジョーンズ

日本語ブックレット版 NL 044





ゲイ人権運動の先駆者 クリーブ・ジョーンズ

(2009年6月19日放送)

翻訳：川添峯子

© 2013 デモクラシー・ナウ! ジャパン

・ クリーブ・ジョーンズ (Cleve Jones)

サンフランシスコで長年ゲイ権利運動にかかわってきた活動家。1985年、AIDSメモリアル・キルト運動を推進するNAMESプロジェクトを創始した。サンフランシスコ・エイズ基金の設立者の1人。

字幕付き動画： <http://democracynow.jp/video/20090619-2>

エイミー・グッドマン：ゲイやレズビアン、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィアの人々に影響するデリケートな問題へのオバマ政権の姿勢に対し、全米各地のゲイ・コミュニティで批判が強まっています。オバマ大統領は水曜日〔2009年6月17日〕、連邦政府職員の福利厚生の一部を同性パートナーにも拡大する覚書に署名しました。しかし、健康保険などは含まれていません。



オバマ大統領：平等を希求するわが国の長年の懸案であった課題に前進の道を開く大統領覚書に、本日、署名するのを誇りに思います。勤勉で献身的で国を愛する多くの連邦職員が、愛する人が同性だというだけで、同僚たちには与えられている基本的な権利を奪われてきま

した。例えば現在LGBT [注¹] の連邦職員には、パートナーやその子供たちが病気になっても看病のための有給休暇が認められていません。パートナーは長期介護保険の対象となりません。海外に赴任している米国外交官のパートナーも平等に扱われず、現地の医療機関の利用や緊急時の面会権が制限されてきました。こうした不当な差別をただすのが、この覚書の意図です。これは我々の求めている変革に向けた歴史的一步ではありますが、最初の一步にすぎません。次に目指すべきことの一つは結婚防衛法DOMA [注²] の廃止です。これは差別的な法律であり、州の権利に干渉するものです。撤廃に向けて議会と協力していきます。



グッドマン：オバマ大統領はDOMAの撤廃に向けて努力すると表明しましたが、政府は1週間前にDOMAを支持する訴訟事件摘要書を提出して結婚の平等のために闘う活動家をいたく失望させたばかりでした。

ゲイの権利擁護団体ヒューマンライツ・キャンペーン [注³] のジョー・ソルモニーズ会長は、オバマ大統領に厳しい口調の直訴状を送りました。

「連邦裁判所に提出された摘要書を読

んで、私たちは人間としてまた家族として、言葉につくせぬような痛みを感じました。私たちの結婚は近親婚なみの扱いで、憲法上の保護はないと言わんばかりです」。

大統領はまた、軍の差別的な「同性愛公言禁止」政策 [注⁴] の撤廃に向けた努力が腰くだけだと批判されています。こうした政府の動きに、同性愛者の権利を主張する多くの活動家が怒りを募らせています。LGBT団体の有力者の中には、来週開催されバイデン副大統領が出席する予定の民主党の献金パーティーをボイコットする動きも出ています。

¹ LGBTとは、レズビアン(Lesbian)、ゲイ(Gay)、バイセクシュアル(Bisexuality)、トランスジェンダー(Transgender)の頭文字をとった呼称。性的少数者とはほぼ同じ意味。

² 1996年に米議会を通過し、クリントン大統領が署名して成立した結婚防衛法(DOMA)は、「結婚は男女間のもの」とし「一つの州で合法化された同性愛者の結婚を別の州では無視することができる」と定めた。2010年末、連邦地方裁判所が、連邦の健康保険、年金、相続税等に関して、同性カップルを婚姻関係として取り扱わないのは違憲であるという判断をくだしたことを受け、オバマ大統領は2011年、DOMAは違憲だと言明し、司法省に対し係争中の訴訟で同法が合憲だと主張することをやめるよう指示した。2013年、6月、最高裁がDOMAを違法と裁決したことにより、法的に婚姻している同性カップルは、連邦政府が提供する1100の便宜を異性婚カップルと同じように受けられるようになった。

³ ヒューマンライツ・キャンペーン(HRC)は、米国最大のLGBT権利擁護団体で、政策提言やロビー活動を行っている。メンバーと支援者は公称150万人を超える。

⁴ 伝統的に同性愛者の入隊が禁じられてきた米軍で、本人がゲイまたはレズビアンであることを公言しないかぎり、性的指向性は問わないとした1993年成立の法律。当時の大統領ビル・クリントンは同性愛者の入隊の解禁を公約していたが、強い反対に会い妥協の産物として、本人が同性愛者であることを隠し通すことを条件に入隊を認める方針を取った。2011年に撤廃された。

同性愛者の権利とエイズ啓発運動の巨星クリーブ・ジョーンズ氏をゲストにお迎えしました。

エイズ追悼キルトの「NAMESプロジェクト」〔注⁵〕の創設者でサンフランシスコ・エイズ基金〔注⁶〕の共同設立者です。ジョーンズ氏は、1970年代にゲイの権利要求運動の草分けでサンフランシスコの市議員だったハービー・ミルク氏〔注⁷〕の親友でした。ミルク氏が事務所で射殺されたとき机の下に倒れていた死体を発見したのもジョーンズ氏でした。ジョーンズ氏は、サンフランシスコの市議に選出されたミルク氏のために働く学生インターンでした。

最近のジョーンズ氏は、ガス・ヴァン・サント監督のアカデミー賞受賞映画『ミルク』の事実考証を担当し、「ユナイト・ヒア」〔注⁸〕とも連携して、労働運動とLGBTコミュニティの連帯に力を入れています。ナショナル・カミングアウト・デイ（NCOD）〔注⁹〕の10月11日には、ワシントンでLGBTコミュニティの平等な権利を求める大行進を計画中です。

クリーブ・ジョーンズさん、デモクラシー・ナウへようこそ。

クリーブ・ジョーンズ： お招きありがとうございます。

ゲイ・コミュニティを裏切るオバマ大統領

グッドマン： ここ数日オバマ政権内の動きが活発です。これはゲイの権利活動家や献金者が民主党の献金パーティーをボイコットしようとしていることと関係がありますか。

ジョーンズ： 政府が何を考えているかまでは、私にはわかりません。献金者の辞退も一因ですし、10月11日のワシントン行進に向けた動きも一因になっていると思います。我々の怒りと不満が治まるどころか強くなっているのを、政府は感じていると思います。

我々は本当にがっかりしています。オバマ氏に大量の票を入れましたから。オバマ大統領も本音

⁵ 1985年にクリーブ・ジョーンズの構想で始まったNAMESプロジェクトは、エイズで亡くなった人々を追悼するために、個人が故人の名前を入れたキルトを作り、つなぎあわせて巨大なキルトにするというプロジェクト。2010年には、重さにして54トンにも達し、世界最大のコミュニティ・フォークアート作品になっている。NAMESプロジェクトを記録したドキュメンタリーCommon Threads: Stories from the Quilt（監督はロブ・エプスタインとジェフリー・フリードマン）は1990年にアカデミー賞の長編ドキュメンタリー賞を獲得した。

⁶ 1983年、エイズの蔓延が始まってまもなく設立されたサンフランシスコ・エイズ基金は、現在、HIV/エイズ感染者の権利を擁護する団体として米国で最大規模かつもっとも影響力の大きい組織のひとつである。

⁷ ハービー・ミルク（1930-1978）は、政治家・ゲイの権利活動家。サンフランシスコのカストロ通りを中心とするゲイコミュニティを基盤に民族的マイノリティや労働組合とも連携し、1977年にサンフランシスコ市の市議員に当選したが、元警官で同性愛者の権利拡大を嫌う元同僚の市議員ダン・ホワイトの恨みを買って、1978年11月、ジョージ・マスコーニ市長と共に市庁舎内で射殺された。ミルクの生涯を描いたドキュメンタリー映画The Times of Harvey Milk（ロブ・エプスタイン監督）は、1985年にアカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞を受賞した。

⁸ 「ユナイト・ヒア」は、2004年にテキスタイル産業の労組とホテル・レストラン産業の労組2つが合併して設立された労働組合で、米国とカナダで26万人余の組合員を擁する。

⁹ ナショナル・カミングアウト・デー（NCOD）は、LGBTの人々の権利擁護、特にカミングアウトに関する市民の認識を高めることを目的に1988年に創設された。毎年10月11日にLGBT、その家族や友人、支持者たちが集い、さまざまなイベントが開催される。

のところでは、我々にとっても国全体にとっても最善のことを目指していると信じたい。しかし彼は、権利と平等を小出しに与えるという心無い方針を続けているように見えます。我々の目標はもっと高いところにあります。平等のかけらを求めて州や郡や市ごとに闘うことにうんざりしています。今回もほんのおこぼれです。オバマ氏がおこぼれをふり撒くのを、ゲイ・コミュニティのリーダーたちが後押ししているのをみていると落ち込みます。

グッドマン： 有名なレズビアンタミー・ボールドウィン議員〔注¹⁰〕は、献金パーティーをボイコットせず問題提起の場にするといいました。彼女も大変危惧しています。昨日遅くオバマ氏が署名した覚書は行政命令ではありません。ですから、この覚書がたとえいくばくかの権利を与えたとしても、オバマ大統領の退任時には失効します。覚書には連邦職員の同性パートナーへの健康保険適用や病院を見舞う権利——という言葉はオバマ氏は使ったと思うのですが——は含まれていませんね。

ジョーンズ： クリントン政権の時と同じです。ビル・クリントン氏はすばらしい演説で我々を排除しない平等社会の展望を語りましたが、結局我々が手にしたのは結婚防衛法（DOMA）と「同性愛公言禁止」政策でした。そしてオバマ氏も美辞麗句を満載した空約束と、おそらくゲイ・コミュニティの有力者数人をいくつかの重要なポストに登用する程度で、一般のゲイは置き去りです。



健康保険の問題ですが、覚書がこれをはずしたのは皮肉です。オバマ大統領が医療保険改革法案への支持を拡大するには、ゲイ・コミュニティが強力な助っ人になれるというのに。医療が受けられるようにすることは、我々には切実な問題なのです。平等な結婚の権利を要求する運動が盛り上がったのは、エイズ蔓延の経験が原動力でした。ですから私たちは、国民全員に、手の届く値段で医療を与えようというオバマ氏の取り組みの強力な支持層になれるのに。これでは支持基盤を自らの手で潰しているように思えるのです。

¹⁰ タミー・ボールドウィンは、1999年以来、ウィスコンシン州選出の民主党下院議員。レズビアンを公言して選出された初の連邦下院議員。

ハービー・ミルクとの出会い

グッドマン： 2009年のアカデミー賞で、映画「ミルク」のハービー・ミルク役で受賞したショーン・ペンの受賞スピーチをご覧ください。平等と同性婚について語っています。



ショーン・ペン： 今晚我々が到着した時に入り口で出迎えた憎悪に満ちたプラカードを皆さんもご覧になったと思います。同性婚禁止に賛成票を投じた人は、じっくり考えるよい機会だと思います。こんなことを支持し続けるならば大きな不名誉を残し、自分の孫から恥だと思われるようになるのを覚悟してください。誰もが平等の権利を持つべきです。

グッドマン： ハービー・ミルク役を演じアカデミー主演男優賞を受賞したショーン・ペン氏でした。ところでちょっと昔の話をしますと、ハービー・ミルク氏はロングアイランドにある私の母校ベイショア高校の同窓生なんです。あなたはミルク氏と何十年も前に出会い、彼の夢の実現に人生を捧げてきましたね。その夢がどんなものだったか、また後にサンフランシスコ市議となったミルク氏との出会いや彼の暗殺などお話しいただけますか。

ジョーンズ： 1975年にサンフランシスコのカストロ通り〔注¹¹〕で出会いました。当時私はストリートキッドのような生活をしていました。彼は私にそんな暮らしをやめさせ、学校にも行かせ、長髪を切らせ、仕事もくれました。父親的存在だったのです。

グッドマン： いつのことですか。

ジョーンズ： 私がサンフランシスコに着いたのは1972年の末でした。その時は街頭で見かけた程度でした。彼の存在を気にかけるようになったのは1975年で、その後、世界中をヒッチハイクして1977年に帰ってきてみると、彼にとっては最後となった選挙運動の最中でブリッグス発議〔注¹²〕に対する反対運動を展開していました。ミルクと親しくなったのは、その頃です。

¹¹ カストロ通りはサンフランシスコのユーレカ谷に近い地域で、1960年代後半から、大きなゲイコミュニティが生まれた。2001年1月13日には米国内初のGLBT歴史博物館が開設された。

¹² 1978年にカリフォルニア州議会議員ジョン・ブリッグスが提議したブリッグス発議の正式名称は、「カリフォルニア州住民投票事項6」。同性愛者およびゲイの権利を支持する人を州の公立校から解雇することができるとする立場に関して住民投票が行われた。

グッドマン：ブリッグス発議とは？

ジョーンズ：同性愛の教師全員の解雇を要求する住民発議で、ゲイへの憎悪に満ちた提案でした。教員だけでなく学区内の全職員が対象で、おまけに自分はそうでなくともゲイの権利を擁護する人々までも排除しようとした。苦戦でしたがカリフォルニア州全体で勝ちました。去年も Prop.8 [注¹³] で、30年前の反対派がまた我々を攻撃しました。

ハービーはゲイの解放と平等を訴えていましたが、当時の有力なゲイ指導者にも批判的でした。彼らはちっぽけな前進ですぐに手を打ってしまう、妥協しすぎるとハービーは言っていました。我々のコミュニティが妥協するたびに、自分たちの人間性をおとしめる行為に加担するとわかっていたのでしょう。平等を少しずつ与えられて納得する集団など他にはありません。部分的な平等などありません。平等か、平等でないかの、どちらかです。

グッドマン：彼は米国でゲイを公表して選挙に勝った初めての議員でしたね？

ジョーンズ：いいえ、じつは違います。彼が初めてとされていますが、本当はその栄誉を与えられるべきなのは、エレイン・ノーブル [注¹⁴] という女性です。ミルクより2年早くマサチューセッツ州議員に選出されました。アンアーバー市議会には、当選後に公表した議員が2人います。ミルクの場合は、殉教者として世間の共感を得た初めての人物だという点が重要です。ゲイの運動は多くの殉教者を出していますが、有名になったのは彼です。

グッドマン：彼の身に起きたことを話してください。歯に衣きせぬ発言で知られ、サンフランシスコの市民すべてとゲイの権利のため闘ったハービー・ミルク氏に何が起こったのか、殺害当日のことや犯人のことなど。

ジョーンズ：彼は死を予感していました。映画の中でも自分の暗殺を予言することばをテープに録音するシーンが出てきますが、あれは現実には起きたことです。彼は、暗殺されると本気で信じていました。暗殺されるほど大物ですかと、私はからかっていたのですが。彼を殺したのは元同僚。元警察官で元市会議だったダン・ホワイ [注¹⁵] です。ホワイは恐怖症といえるほど

¹³ カリフォルニア州では2008年5月に州最高裁が同性婚を認める判決を下し、結婚する同性カップルが続出した。だが、同年11月に住民投票で同性結婚権の廃止を求めた州憲法改正案Prop.8が可決された。カリフォルニア州最高裁は2009年5月、婚姻は男性と女性の間で行われるものと限定する住民投票の立場を支持したが、2013年6月の連邦最高裁の判決により、同性結婚権が再び認められた。

¹⁴ エレイン・ノーブルは政治家、LGBT権利擁護活動家。1975年にマサチューセッツ州の州議会議員選挙に当選。同性愛であることを公言して当選した全米初の州議員になった。ちなみに、連邦議会では民主党のバーニー・フランク下院議員が1987年にカミングアウトし、ゲイであることを自ら公言した初の議員になった。

¹⁵ ダン・ホワイ(1946-1985)は、元警官・消防士。1977年にサンフランシスコ市議会に民主党市会議員としてミルクと同期で当選したが、2人は次第にことあるごとに衝突するようになった。1978年11月10日、ホワイは自らの意志で市会議員を辞職した。支持者の説得で数日後に辞表の撤回を試みたが、マスコニー市長は別の人物を後任に任命した。恨みに思ったホワイは、銃と予備弾薬10発を持ち、金属探知機を避けるため窓から市庁舎に入り、市長とミルクを射殺した。裁判では、「計画的殺意のない殺人」という主張が認められ、わずか懲役5年の判決を受け、2年未満の服役後、仮釈放になった。釈放後、ホワイはサンフランシスコの地元に戻ったが、1985年に自殺した。

同性愛を嫌悪していました。彼の心がわかるとは言いませんが、なにか大きな問題を抱えていて市議会の日々の仕事も処理できないほどいきづまっていた。そして1978年11月27日、ハービー・ミルクとジョージ・マスコーニ市長を殺害しました。マスコーニ市長もすばらしい人物だった。

グッドマン： 事件が起きた時、あなたは、事務所に向かっていた。遺体の第一発見者になったのですね？

ジョーンズ： 銃撃があったとき私は市役所のすぐ外にいて、市長室のまわりが騒然となっていたので怖くなりました。市庁舎の、市長室とはちょうど反対側にいたので、裏口から入って議員室にいくと、彼の遺体が見えました。

グッドマン： 靴で彼とわかったのですか？

ジョーンズ： はい。ハービーは、背広に合う靴は一足しかもっていませんでしたから。履き古したウィングチップです。

最悪でした。一日中、これで終わりだと考えていました。彼は私にとって父親代わりでした。今では実父と親しくしていますが、当時の私は家族とのつながりが途絶えていました。ハービーは私にとっても親切で我々の指導者でした。全てが終わったと一日中ずっと絶望していましたが、日没と共にサンフランシスコ住人が何万人も集まり始め、ゲイだけではなく、ストレートも、老いも若きも、黒人もラティノも白人も、キャンドルに火を灯し市庁舎まで行進しました。いや、これは始まりなのだと、私はそのとき悟りました。



エイズ・キルト運動からワシントン大行進へ

グッドマン： 30年後の今、ワシントン大行進を計画中ですね。あなたは、「エイズ・キルト」の共同創設者でもあります。その重要性和大行進とのつながりを聞かせてください。

ジョーンズ： 今まで抗議運動やデモをたくさん組織してきました。1980年代にエイズが猛威をふるって友人の多くが亡くなった時、私はゲイ・コミュニティに起きていることを社会に伝える方法を必死に考えていました。その一方で、友達がばたばたと倒れていくのを見て、我々はみな生きた証も残せず消えていくのだと思いつめました。友人たちは才能あふれる人たちばかりで、生きていればきっとエミー賞やピュリツァー賞やノーベル賞を取り、国会議員にもなっていたでしょう。私は世界のエイズ対策を妨げている愚かさや残酷さや無知を突き破る方法を何とかみつきたいと悩みました。

サンフランシスコの連邦ビルによじのぼって壁一面に亡くなった人の名前を貼り出す抗議運動をした時のことです。貼り出された名前がパッチワークのように並ぶのを目にした時に、故郷のインディアナ州ビーリッジで祖母や曾祖母が縫っていたキルトが目に見え、これはいいと思いました。

今度のワシントン行進は重要です。2009年10月11日です。キルトは持っていかないし、ロックコンサートも開きません。奇抜なことはせず抗議行動を行います。反オバマではありません。平等と戦略の転換を求めます。

ハービー・ミルクの時代の闘争は戦略に選択肢がありませんでした。米国の中で、我々が少しでも権利を得られる地域は、本当にわずかでした。私がゲイを公表したころは、同性間の性交渉は重罪でした。刑務所に送られ、自殺する人もいました。逮捕や告訴は日常的でした。今の若者には意外でしょうが、ダンスすら違法でした。同性同士で踊るのは法律で禁止されていて、逮捕されることもありました。ですから70年代には、どんな機会でも利用しました。アンアーバーやマジソンのような小さい大学町でなら、少しは仕事の保障もあったかもしれませんが。

昔はそうでしたが、もうそんな我慢はしません。我々は50州すべてで完全な平等、民法の下での平等な保護を求めます。合衆国憲法修正第14条〔注¹⁶〕が保障する、法の下での平等な保護です。

グッドマン： クリーブ・ジョーンズ氏はゲイの平等を訴え10月11日のワシントン大行進を組織しています。

¹⁶ アメリカ合衆国憲法修正第14条は南北戦争後に成立した3つの憲法修正条項の一つで、解放された奴隷の権利の確保を意図し、適正手続き条項や平等保護の条項を含む。

編集協力：中野真紀子

編集 大竹秀子

レイアウト：チエ・マーティン

制作 デモクラシー・ナウ！ジャパン

© 2013 デモクラシー・ナウ！ジャパン

お問い合わせ office@democracynow.jp

ニュースレター購読のお申し込みはこちらへ：<http://democracynow.jp/newsletter>